

# ネット社会子にルールを

## 高松でシホ米の自殺例紹介

内海康則副会長は「携帯電話を購入後、子どもがどう使っているのかを知る必要がある」と強調。

阪根健二・鳴門教育大教授は「操作方法を教わりながら、聞いてみれば」と助言した。

読売 10.15. H21.

携帯電話やインターネットを巡るトラブルから子どもを守る方策を考えるシンポジウムが14日、高松市のサンポート高松で開催、保護者や教師ら約350人が参加した。

最初に、子どものネット環境に詳しい加納寛子・山形大教授が講演。アメリカでネットの掲示板に書き込まれた悪口が元で、子どもが自殺した事例を紹介し、「正しいと一方的に使い方を押しつけず、子どもが理解し、納得するルール作りが重要」と呼びかけた。

その後、「ネット社会に

# ネット犯罪から 子どもを守る

携帯電話やインターネットが絡んだ犯罪から子どもを守るための対処法を学ぶセミナー(県、青少年育成香川県民会議主催)がこのほど、高松市のサンポートホール高松であった。保護者や小中高校の教諭ら約350人が参加。講演やシンポジウムを通して、子どもを取り巻くネット世界の現状を認識するとともに家庭や学校での教育の重要性について理解を深めた。



ネット犯罪や子どもに対する指導方法などについて講演する加納山形大准教授。高松市、サンポートホール高松

## 高松でセミナー 対処法や取り組み紹介

加納寛子・山形大准教授が講演し、携帯電話の自己紹介サイト「プロコ」や学校裏サイトを通じたいじめや犯罪の実態を解説。その上で「家庭や学校現場で正しい使い方を指導することが大切」と強調した。

指導に当たっては「使い方を子どもに押しつけるのではなく、しっかり話し合ってもらいたい。大人が継続して監視することも重要」と指摘。指導方法の一つとして、親子で携帯の利用目的や利用方法などを記した覚書を作り、安全に使えるまで一緒にトレーニングする取り組みを紹介した。

シンポは、阪根健二鳴門教育大大学院准教授をコーディネーターに教育関係者らら氏がパネラーとして登壇。県ネットアドバイザーの高瀬寛照氏は「県内中高生の数千人がプロコを運営し、顔や実名を公表している例も多い。保護者は現実を知ってほしい」と指摘。県PTA連絡協議会副会長の内海康則氏は「保護者が携帯の機能やネットの落とし穴を知らなければいけない」と話した。